ニュースレター

2007年 Summer Vol.15 （2007年6月発行）より

巻頭言　美のセンス・感覚
日本歯科審美学会　副会長　佐藤　亨

第18回日本歯科審美学会学術大会へのお誘い
第18回日本歯科審美学会学術大会大会長　寺田善博

編集委員会・学術委員会報告

セミナー委員会報告
セミナー委員会　委員長　千田　彰

国際渉外委員会報告
国際渉外委員会　委員長　中村隆志

ＩＦＥＤソウル大会に出席して
日本歯科審美学会　国際渉外委員　近藤隆一

ＩＦＥＤ参加とトレンド情報
歯科衛生士　中村映子

会則検討委員会報告
会則検討委員会　委員長　長岡英一

総務報告
拡大する日本歯科審美学会
総務担当　常任理事　福島正義

認定医・認定士審議会報告
認定医・認定士審議会　委員長　末瀬一彦

ホワイトニングコーディネーター委員会報告
　ホワイトニングコーディネーター委員会　委員　古谷彰伸

ホワイトニングコーディネーター認定試験を受けて
　日本歯科大学新潟病院　歯科衛生科　相方恭子

歯科技工士部門報告
　歯科技工士部門　常任理事　中込敏夫

広報委員会報告

｜Back｜

2007年 Summer Vol.15 （2007年6月発行）より

巻頭言

美のセンス・感覚

日本歯科審美学会　副会長　佐藤　亨

皆様ご存知とは思いますが、本年2月から始まったホワイトニングコーディネーターの企画は、日本歯科審美学会の1ページを飾る一大イベントとなっています。2回の開催の受講者は978名、6月10日以降の参加申込者は815名が予定されています。この中で124名の方が新しく学会に入会し、日本歯科審美学会は3月31日現在、2000名を越える学会員数となりました。この状況は、田上学会長、久光久委員長をはじめとするホワイトニングコーディネーター委員の企画・運営のおかげと感謝しております。

“美”には、機能美、形態美、人工美、自然美、心の美、内面美、健康美、幽玄美など、ここには書ききれないほどの言葉があります。

これら美の判断基準は、個人の経験、知識、感情などの美意識に基づくため、各個人の美の感受の仕方は異なってきます。なかでも色彩美、形態美は、患者さんが比較的容易に判断し、自分の感想、評価を述べることができます。そこで重要になるのは、歯科処置前に行なうインフォームドコンセントとなります。先生方の美意識を患者さんに押し付けるのではなく、十二分に説明をし、それを患者さんに選択してもらうことが重要となります。そのためには、いろいろな方法で患者さんと先生が同一の色調を認識することが必要となります。

歯科審美の世界はとくに、診療の良否は術者である先生方の仕上がり具合の満足度、症例写真として提示できるかではなく、患者さんの満足度が結果のすべてだと考えます。日々の診療においては、美のセンス・感覚の鋭い先生方には患者さんが美の評価に対し不満の時もあるのが現実ではないでしょうか。また反対に、患者さんは先生の美のセンス・感覚に満足していない場合もあるかもしれません。

この学会で、審美歯科診療の理論や技術を習得していただくだけでなく、美のセンス・感覚を習得することも重要なことと考えます。

｜Back｜

2007年 Summer Vol.15 （2007年6月発行）より

第18回日本歯科審美学会学術大会へのお誘い

日本接着歯学会と合同開催

大会長　寺田善博

この度、メインテーマ「接着と審美」を掲げて第18回日本歯科審美学会学術大会を平成19年11月17日（土）、18日（日）の両日、九州大学医学部百年講堂および九州大学同窓会館において開催する運びとなりました。

九大病院地区正門を入ると、前方右手に九大病院（新病院、病棟および歯科外来）（写真１　九大病院）が見えます。九大病院外来棟をはさんで左手が会場の医学部百年講堂（写真２　百年講堂）です。

今回の学術大会は、日本歯科審美学会と日本接着歯学会の合同学術大会として開催することになりました。

今回の学術大会における特別企画としては、会長講演（基調講演）、特別講演、教育講演、シンポジウム、海外招待講演、臨床セミナー、歯科技工士セッション、歯科衛生セッション、市民フォーラムを企画致しました。

特別講演は、九州大学大学院芸術工学研究院教授の源田悦夫先生に「仮想身体の表情と美について」と題してご講演頂きます。会長講演（基調講演）は今回の合同学術大会の提案者でもある田上順次先生が最適任と考え、お願いすることに致しました。シンポジウムⅠでは「接着と審美（仮題）」について、シンポジウムⅡでは「審美のクライテリアを求めて（仮題）」について、それぞれ数人の演者にご講演頂き、その後参加者の方々からご質問やご意見を頂き、活発な討議が行われることを期待しております。

1日目の午後には市民フォーラム「歯ッピイライフ（仮題）」を企画し、広く市民の皆様に歯科医療のことを知って頂ける機会になればと思っております。

また、1日目の夕刻には両学会の合同懇親会を開催致します。両学会の会員相互の親睦を図るいい機会だと思われますので、多数のご参加をお願い致します。

それでは、皆様のご来場を楽しみにお待ちしております。

（左：写真１　九大病院、右：写真２　百年講堂）

2007年 Summer Vol.15 （2007年6月発行）より

編集委員会・学術委員会報告

編集委員会　委員長　寺田善博

平成19年度編集委員会の報告をさせて頂きます。寺田善博（九大）が編集委員長をお引き受けしてから1年が過ぎ、2年目に入りました。前回のニュースレター以降のご報告事項としましては、「歯科審美　第19巻2号」を平成19年3月20日に発行致しました。印刷された表紙も皆さんなじまれたことと思います。今後の予定としましては、「歯科審美　第20巻1号」の編集に向けて査読作業を進めています。6月15日に平成19年度　第1回編集委員会を開催して、さらに内容の検討を行う予定です。以前からご報告しておりましたように、今後、総説、特集、誌上セミナーなどを取り上げて、紙面充実をはかりたいと思っております。先生方にも執筆のお願いをさせて頂くことになると思いますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。また、引き続き、「審美歯科関連の外来紹介」につきましても、各大学に執筆のご依頼をさせて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。すでにご報告しておりますが、第15回学術大会から、講演論文の提出義務づけを廃止し、口演・ポスター発表の演者に事後抄録の提出を義務づけることになりました。この変更により自動的に講演論文が集まらないことになりますので、先生方には日本歯科審美学会学術大会で発表された研究につきましては積極的に「歯科審美」に投稿して頂きますようお願い申し上げます。

今後とも委員会としては紙面充実に努力していきたいと思いますので、皆さんのご協力をお願いする次第です。

学術委員会 委員長　松村英雄

第16回学術大会（平成17年度）における学会優秀発表賞2件は以下のとおり決定いたしました。

研究報告部門

武井典子（財団法人ライオン歯科衛生研究所）

・某大手企業勤務者の口腔の現状に対する満足度について

臨床報告部門

高田恒彦（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科　う蝕制御分野）

・審美的修復材料の長期臨床経過に関する1症例

また、平成18年度に開催された第17回学術大会における発表の中から、デンツプライ賞が選考されました。

デンツプライ賞

六人部慶彦（大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学　講座顎口腔咬合学分野）

・隣接面ポーセレンラミネートベニアにより歯間乳頭を再建させた症例

以上の表彰は本年11月17日に開催されます平成19年度第18回本学会総会（九州大学医学部百年講堂・同窓会館）で行われます。

本年度学術大会は日本接着歯学会学術大会との合同大会で、メインテーマもそのものズバリ、「接着と審美」です。皆様のご参加と活発なご討論をお願いいたします。

｜Back｜

2007年 Summer Vol.15 （2007年6月発行）より

セミナー委員会報告

昨年度日本歯科審美学会セミナーは、「日々の臨床に歯科審美を！」という総合テーマのもとで、富山と大阪で開催しました（写真1 大阪会場）。かねてからご案内している通り、セミナーを企画し、実施しはじめた当初は、「審美」をアピールすることを主たる目的にしたように思います。またその目的は、当時の佐藤委員長はじめ委員各位の奮闘で、十分に達成され、学会の今日の隆盛に大いに貢献しました。

今期は、この過去の実績を参考として、審美をより多くの臨床家に、より深く浸透させることを目指してできるだけ（歯学部、歯科大学のない）地方都市でも開催して行くことになりました。そしてごく一般の、そして日々の臨床にも、実は「審美」があります！・・をアピールすることから冒頭に紹介した総合テーマが選ばれました。

昨年度2回のセミナーは、おかげさまで成功裡のうちに終了し、またアンケート結果から受講者の評判も良かったようです。そこで今年度もその趣旨、総合テーマを継続し、可能な限り、地方都市でも開催することを計画しています。また、ホワイトニングコーディネーター制度が爆発的な評判になり、多数のコーディネーターが誕生し、その多くが本学会に入会することも予測され、認定衛生士、コーディネーター、新入歯科衛生士会員に対する研修の場としてのセミナー開催の意義も高くなると予測しています。認定委員会、ホワイトニングコーディネーター委員会とも密に連携して行かねばなりませんが、今後はこの点にも対応します。

今年度は、以下に紹介するセミナーのほか、北海道、名古屋などでの開催を企画中ですので多数の参加をお待ちします。

（セミナー委員会　委員長　　千田　彰）

平成19年度第1回セミナー　日々の臨床に審美歯科を！
オールセラミッククラウンできれいな歯、きれいな歯ぐきを

開催日時：平成19年10月14日（日）
開催場所：福岡市博多区石城町　国際会議場

（写真1：大阪会場セミナー風景）

2007年 Summer Vol.15 （2007年6月発行）より

国際渉外委員会報告

国際渉外委員会　委員長　中村隆志

本年5月4日から6日まで、ソウルで第5回IFED学術大会が開催されました。IFEDソウル大会は、登録者数が2100名以上と過去最高となり、日本歯科審美学会からも田上順次会長、桑田正博監事、千田彰理事、近藤隆一国際渉外委員らが演者として講演を行うなど、多数の会員が参加して大会を盛り上げました。ソウル大会の詳細に関しては、他のレポートを参照していただくものとして、ここでは同時に行われたアジア歯科審美学会（AAAD）理事会およびIFED総会の内容の一部をお知らせします。

アジア歯科審美学会は、Dharma会長（インドネシア）のもとで活動を行っております。会員資格には、組織会員と個人会員があり、日本歯科審美学会は組織会員として参加しています。2008年の5月2-4日にバリ島(Grand Hyatt Bali)で学会が開催されます。学会誌のエディターはIFEDのKo会長（韓国）であり、本年中に学会誌を発行予定です。

IFEDは、アメリカ、ヨーロッパ、日本の各歯科審美学会が中心となって設立されました。IFEDは個人ではなく各国の審美学会が組織として参加している団体で、現在までに世界中で28の審美学会が加盟しています。会長は、ソウル大会までが、Dr.Ko（韓国）およびDr.Tay（シンガポール）であり、ソウル大会以後はProf.Nathanson（アメリカ）が務めます。次回の第6回大会は、アメリカ歯科審美学会(AAED)がホストとなり、2009年8月にラスベガス(Bellagio Resort)で開催予定です。

この他に、日本歯科審美学会では韓国の歯科審美学会との姉妹提携を積極的に進めていく予定です。今年の秋に博多で開催される学会（寺田大会長）では、韓国の審美学会の会長であるDr.Yimが招待講演を行います。会員の皆様の多数の参加を期待しております。

左：写真１　IFEDソウル大会のGala Dinnerにて。Dr.Ko(IFED会長)を囲んだスナップ。
右：写真２　ソウル大会の学会前朝食時に行われたアジア歯科審美学会(AAAD)理事会。Dharma AAAD会長をはじめとして約15名が参加した。

2007年 Summer Vol.15 （2007年6月発行）より

IFEDソウル大会に出席して

日本歯科審美学会　国際渉外委員　近藤隆一

2007年5月4日-6日間の3日間、韓国で開催された第5回国際審美学会International Federation of Esthetic Dentistryに参加した。会場は首都ソウルのCOEXコンベンションセンターに設営され、世界各国からの参加者で溢れかえった。日本歯科審美学会からは演者として榎本・桑田・千田・田上・渡辺の諸先生がウェブサイトとプログラムに写真入りで掲載された。私自身は、インターナショナル・ショーケースというセクションで講演する日本代表としての招聘だが、数多くの友人達が聴講してくれたことでコージーな空間となり、個人的な国際学会ならではの雰囲気を味わえた。

総体的には中規模といえる2000人台の参加人数と知らされたが、メインイベントとして開催されたのは「チーム・アトランタ　2007」、Goldstein Rが率いる米国審美界の大御所チームの集中講演は前評判の高さもあり、膨大と表現したくなるほどの参加者が集った。また。「ホワイトニング」はホーム・ホワイトニングの術式を確率したHaywood Vを中心とした半日コースが用意され、さすが受診者数はダントツと伝えられる韓国ならではの人気で、会場はほぼ満杯であった。

学会に参加して強く印象に残ったことは、韓国のドクターたちの目が日本のドクターたちより輝いていたこと、そしてアジア圏内における英語力は日本同様に低いと評価される韓国だが、若いドクターたちの半数近くは翻訳聞き取り用レシーバーを装着せず英語を直に聞いていた、この２点である。

ここの「講演感謝状」を画像として添付するが、国際学会における日本の弱点は演者の絶対数が少ないことにある。会員諸氏も講演できるチャンスを得た場合には、臆することなく登壇して感謝状を獲得してほしい。私も英語に堪能ではないが、ネイティブ・スピーカーでない各国のドクターたちが、緊張しながら頑張って講演している姿を見習ってほしい。

「一歩踏み出すか・止まるか」で展開する世界は大きく異なる、と感じた国際学会であった。

（写真1（左）左からHaywood,Kwon,Greenwald,Kondo）
（写真2（右）講演感謝状）

| Back |

2007年 Summer Vol.15 （2007年6月発行）より

IFED参加とトレンド情報

歯科衛生士　中村映子

第5回IFED世界大会（5月4日～6日まで）が韓国ソウルにて開催され、私も参加して参りました。同時にデンタルショーも行われていました。各コーナーにはクッキーや飲み物、あるところはソフトクリームまで無料サービスされ、楽しみながらブースをまわることができました。インプラントやホワイトニングの関連商品が非常に多く、それに対して予防関連商品が非常に少ないことに驚き、韓国の歯科事情を垣間見たような気がしました。

日本歯科審美学会でもホワイトニングコーディネイター制度がはじまり、私をはじめ多くの歯科衛生士の方が取得されていることに喜びを感じ、そのことが、日本でもホワイトニングの普及につながることの期待と責任を感じております。

ホワイトニングを臨床で行う際、どれくらい白くなったかという点が、患者様の要求に応え、さらには信頼関係を築くうえで重要になってきます。当院では客観的にビジュアル化して、「Casmatch®（キャスマッチ）」とシェードガイドを置きデジタルカメラで治療前後の記録をとっていましたが、その方法では、撮影時の環境・設定を同じようにしたつもりでも肝心の色調が微妙に変わってしまうことが問題となっていました。

この「クリスタルアイR」[（株）ペントロンジャパン]をホワイトニング時に活用したところ、外光を遮断することで、撮影環境に影響されることなく、正確なシェードテイキングができるようになり、私たちは、患者様への納得のいく説明ができるようになりました。

色調の変化を記録することはとても難しいことです。技工所への補綴物のシェードの伝達だけではなく、チェアサイドでもホワイトニングの色調変化の説明として、活用できる機械としてご紹介いたしました。

左：写真１　IFEDにおけるデンタルショー
右：写真２　クリスタルアイによるシェード測定

｜Back｜

2007年 Summer Vol.15 （2007年6月発行）より

会則検討委員会報告

会則検討委員会　委員長　長岡英一

昨年10月の理事会／評議員会・総会において、会長の選出方法を明記した、第4章（役員）第13条第1項の改訂案、「会長、副会長は理事の互選により選出し、評議員会の儀を経て、総会で承認を得る。」が承認されました。その後、本年2月の常任理事会において副会長を歯科技工士と歯科衛生士各1名を含む4名の体制にすることが決まりました。そこで、再度、第13条を見直し、副会長については第1項から削除して第2項として新規に項目を立て、第1項は会長のみとし、他の項目については番号を繰り下げるだけの改訂案を検討しました。第2項について、「副会長は、次期会長候補、歯科衛生士、歯科技工士各1名を含み、理事の互選により選出し、評議員の儀を経て、総会で承認を得る。」とする改訂案を5月の常任理事会・理事会に提案し、承認されました。

早速、改訂案に基づき、次期会長・副会長が選出されました。このことにより、次期会長候補者が新役員人事案を9月頃開催予定の常任理事会に提出し、11月の理事会／評議員会・総会において次期会長以下新役員人事の承認を一括して得ることができるようになりました。また、副会長に次期会長候補、歯科衛生士および歯科技工士各1名を含むことによって、事業および予算などの会務運営に継続性を保ちつつ新機軸を打ち出せるようになっただけでなく、歯科医療全体の質的向上に寄与することが期待されます。最近、歯学部に歯科衛生士あるいは歯科技工士を要請する4年制学科が設置され、昨年は、各学会において歯科衛生士の業務範囲に関するアンケート調査がなされましたが、このような社会情勢にあって、今回の会則改訂は社会的要請に適っているといえます。しかし、新規程を含め、会則には不備な点があるため、会則検討委員会では、さらなる整備を図っていきますので、会員諸兄姉のご協力をお願いいたします。

新緑の札幌大通り公園（加藤喜郎撮る）

｜Back｜

2007年 Summer Vol.15 （2007年6月発行）より

総務報告
拡大する日本歯科審美学会

総務担当　常任理事　福島正義

会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

まず、皆様に学会の会員数がついに2,000名を突破したことをご報告いたします。この規模は日本歯科医学会分科会に属する日本歯科理工学会、日本歯科麻酔学会や日本老年歯科医学会に匹敵します。他の学会に例を見ない会員増加の要因は、セミナー事業と歯科衛生士対象のホワイトニングコーディネーターの認定事業によるものと思われます。とくに後者のおかげで歯科衛生士会員数が、わずか数か月で57名から271名に増え、歯科技工士会員数を大きく上回りました。この傾向はしばらく続くものと期待しております。こうした会員構成の変化を受けて、先のニュースレターでもご報告しましたように、平成19年4月1日より会員の区分が改訂され、A会員（歯科医師）12,000円、B会員（歯科技工士、歯科衛生士、その他）6,000円の2区分となりましたのでご承知おき下さい。また、会長と副会長は理事会での選挙で選出され、副会長には次期会長候補、歯科技工士、歯科衛生士を含む4名とするように会則の改定が平成19年5月29日の理事会で了承されました。新会則に基づいて平成20年度からの新しい執行部人事、新年度事業案および予算案を平成19年11月の総会で一括してご承認をいただけるように鋭意準備を進めております。

今年度の第18回学術大会は寺田善博（九大）大会長のご尽力により11月17日～18日に第26回日本接着歯学会と合同開催されます。合同開催の経緯は田上会長が両学会の会長職を兼ねておられること、歯科接着と審美治療は切り離すことができないとの認識が一致したことによります。両学会のエキスパートによる講演や研究報告が多数企画されておりますので是非、福岡においでいただきたいと存じます。歯科審美の拡大は国内外を問わず留まるところがありません。その1例として今年5月に韓国で開催されたIFED（国際歯科審美連盟）大会では2,000名もの参加者があり大盛況でした。秋には韓国歯科審美学会と姉妹協定を結び、国際交流を強化します。皆様もこうした流れに乗り遅れないように日々ご研鑽下さい。

｜Back｜

2007年 Summer Vol.15 （2007年6月発行）より

認定医・認定士審議会報告

認定医・認定士審議会　委員長　末瀬一彦

平素は、日本歯科審美学会認定医・認定士審議会に対しまして深いご理解と温かいご支援を賜り誠にありがとうございます。

認定医・認定士審議委員会は、歯科医師6名（大学教授4名、開業医2名）、歯科技工士2名、歯科衛生士2名によって組織され、認定制度のあり方、申請および更新の書類審査、新規申請書のプレゼンテーション、認定講習会の企画などの業務を行っています。学会員2,000名に対して認定医・認定士の数は90名ほどで、ほか学会でも必要とされている認定医数である400名（会員数の約2割）にはほど遠い数です。[審美歯科]が国民に浸透してきているなか、学会の大きな役割として[審美歯科]に対する正しい知識の啓蒙と臨床および研究活動を実施していかなければなりません。まさに学会を代表してそのミッションにあたるのが認定医・認定士です。歯科技工士認定士では、今秋から[認定士講習会]を全国各地で開催し、[審美歯科]のスペシャリストを養成すべく[審美学会認定士]の育成を目指しています。また歯科衛生士認定士におきましては現在実施をしていますホワイトニングコーディネーターの講習会を機に、会員の増強とともにホワイトニングなどに特化した認定士の拡大を目指しています。そして認定医にあっては、審美修復、インプラント、矯正、口臭などの専門分野のスペシャリストとして国民の身心の健康増強に寄与できる認定医を取得され、一人でも多く活躍していただきたいと思います。

本年5月の連休あたりに評議員および理事の皆さん方のなかで、会員歴において認定医申請資格をもっておられる方にご案内を差し上げましたところ、多くの先生方からお問い合わせがございました。ご関心をお示しいただき、誠にありがとうございます。当方の説明不足から、ご案内をさせていただきました会員の先生方にはすべて申請できるようなニュアンスでしたが、あくまでも[会員歴]のみ有資格者であって、認定医制度規則に定められています学会出席、業績（口頭発表、研究論文等）などは規定の単位が必要です。説明不足につき、改めてお詫び申し上げます。しかし、ご関心をもっていただきました先生方には、日本歯科審美学会のホームページの認定制度および申請例をご参照いただきまして、再度認定医資格申請にチャレンジしていただきますよう心よりお願い申し上げます。

認定医・認定士に関するお問い合わせはご遠慮なく事務局へご連絡下さい。

認定医申請（新規および更新）は年2回（春季・秋季）、認定士申請（暫間期間新規）は年1回（春季）です。

認定医・認定士審議会では、これからも学術委員会およびセミナー委員会、ホワイトニングコーディネーター委員会などと十分なコンセンサスを得た講習会と開催するための企画を立案していきたいと考えています。会員の皆様方には、学会員の任務として認定医・認定士の積極的な臨床活動に期待しています。

2007年 Summer Vol.15 （2007年6月発行）より

ホワイトニングコーディネーター委員会報告

ホワイトニングコーディネーター委員会　委員　古谷彰伸

久光　久委員長、佐藤　孝副委員長、大槻昌幸委員のもとホワイトニングコーディネーター講習会、認定試験の第1回を昭和大学旗の台校舎（2月11日）で行い、562名が受講しました。定員以上の申し込みのため急きょ追加の第2回を鶴見大学(4月15日)で行い416名が受講しました。講習会は東当照夫委員がホワイトニング基礎編、椿　智之委員が臨床編、大森かをる委員がＱ＆Ａとホワイトコート、歯科衛生士である田島菜穂子委員（第1回）と永瀬佳奈委員（第2回）がケアとカウンセリングの講演を行いました。会場は多くの歯科衛生士さんの熱気にあふれ、熱心に講義を聴き、真剣に試験に臨んでいました。星野睦代委員はその後の膨大な数のアンケートの分析を行っています。

保健師や助産師になれる道がある看護師に比べ、歯科衛生士には今までキャリアアップを図れる資格があまりありませんでした。田上順次会長の今回の発案は彼女たちの熱意、向上心の高さをうまく汲み取ることに成功したと思います。始まってしまいますと多方面の反響の大きさに私たち委員も身の引き締まる思いです。

講習会開始前の歯科衛生士会員は58名でしたが、今は271名（5月31日現在）に増加しました。今後はせっかくホワイトニングコーディネーターや会員になった歯科衛生士のために、ステップアップ講習会の企画や学会誌の歯科衛生士向け記事の充実などで、彼女たちのニーズに答えていく必要があります。また要望の多い歯科医師向けの講習会など当委員会だけでなく学界全体の対応も必要でしょう。

今年は第3回（6月10日）の大阪ATCホール550名はすでに満席です。第4回（10月14日）を福岡国際会議場で、第5回（12月9日）を再び鶴見大学で行う予定です。ご希望の方が大変多い状況ですので、会員の先生方には早めに受講のご検討をお願いいたします。

早朝に咲く撩乱の草花（加藤喜郎撮る）

｜Back｜

2007年 Summer Vol.15 （2007年6月発行）より

ホワイトニングコーディネーター認定試験を受けて

日本歯科大学新潟病院　歯科衛生科　相方恭子

私はこの度、平成19年2月11日に昭和大学旗の台校舎で開催された、「第1回　ホワイトニングコーディネーター講習会及び認定試験」を受けさせていただきました。

昨年の秋頃だったでしょうか、職場の先生より日本歯科審美学会で新しくできるこの制度のことを教えていただき、日頃から審美歯科に携わることも多く、もちろん興味もあったため、すぐに申し込みをしました。

試験当日は、会場への経路など不安もありましたが、案内係の方がいてくださったこともあり、スムーズに会場へ向かうことができました。また、受講内容も大変分かりやすく、特に患者様からのＱ＆Ａの項目は、すぐに臨床で活用できるので、非常に勉強になりました。

歯科医療は、治療中心の時代から予防歯科へと変わり、さらに今後は「よりきれいに」「より美しく」と審美的な需要が増える時代へと変わりつつあるのではないでしょうか。人々が、もっと「口元」に関心を持ち、意識を高めることによって、う蝕や歯周疾患の減少へもつながっていくことと思います。今や、性別や年齢を問わずにエステティックサロンやネイルサロンには月1～2度と通うように、歯も「白く」「美しく」するために、誰もが気軽に歯科医院に来院できる環境作りや、治療や予防の目的で来院された方が気軽に興味が持てるように、今回頂いたこの資格を存分に活用していきたいと考えています。患者様の要望を的確にとらえ、アドバイスし、できる限り満足した結果が得られるようお手伝いできるホワイトニングコーディネーターを目指していきたいと思います。

左：写真1　患者様へのアドバイス
右：写真2　白い歯外来のパンフレット

写真3　テレビ塔礎に咲く可憐な草花（加藤喜郎撮る）

2007年 Summer Vol.15 （2007年6月発行）より

歯科技工士部門報告
「日本歯科審美学会役員における歯科技工士の役割」

歯科技工士部門　常任理事　中込敏夫

1988年に研究会として産声をあげた日本歯科審美学会も、今年で学会として18回目、研究会からの通算では20回目の学術大会を開催するまでになりました。私自身、会設立当初より、組織立ち上げの一翼を担っていた寺川國秀先生（現名誉会員）の近くに常におりましたので、その時からの経緯を多少は心得ているつもりです。

日本歯科審美学会は、設立当初より「産学臨の三位一体」を掲げて、歯科界に「審美歯科」という大きなうねりを創造してきたと言えます。そして多くのメーカー等、歯科業界を取り巻く方々と密に連携をとられて、学術大会やセミナーなどを開催して参りました。また同時に、いわゆる常任理事といわれる学会の執行部に歯科技工士、歯科衛生士を招き、それぞれに「歯科技工士部門」「歯科衛生士部門」という独立した部署を設置し、その活動を見守ってきました。さらには副会長の重席にも歯科技工士が就任してまいりました。

歯科技工士として初の常任理事には桑田正博先生、そして次に齋木好太郎先生が就任され、その後、お二人は順番に本学会の副会長も務めておられます。これは歯科学系の学会ではきわめて珍しく、私の知る限りでは他に日本歯科技工学会しか存在しません。つまり、「産学臨の三位一体」とともに、パートナーである歯科技工士、歯科衛生士の存在価値を大きく認め、共に歩もうという姿勢を実際の形にして見せる、たいへんに懐の深い学会であると言えるでしょう。

理事会でも常に我々の提案に対して真摯な姿勢で受け止め、誠実な対応をして下さる理事の先生方には心より感謝しております。そして、そのような中から新たな事業の展開が生まれようとしています。

我々歯科技工士会員は、日本歯科審美学会を育ててきた多くの人材、またその方々の叡智によりつくられてきた組織のさらなる拡大・拡充する努力をしたいと思いますし、さらにこれらを受け継ぐ会員の皆さんのために、充実した学会活動を展開してゆきたいと思っております。

左：写真1　左：齋木、右：桑田の各先生
右：写真2　大通り公園の草花（加藤喜郎撮る）

2007年 Summer Vol.15 （2007年6月発行）より

広報委員会報告

広報委員会　委員長　加藤喜郎

私共が広報委員会委員に就任してから、早いもので1年と2か月が経過した。ニュースレターもVol.13、Vol.14と発行し、今回のVol.15 2007 Summerが3巻目である。幸い日本歯科審美学会会員のご理解とご協力、新任の広報委員会委員の先生方の献身的なご協力によって、立派なニュースレターに仕立てることができ、皆様方からもお褒めの言葉を頂き、喜んでいる次第である。

1)ニュースレターVol.15 2007 Summerの企画構成
今回の広報委員会は特にインターネット会議を行って、意見の交換・原稿内容の調整を行った。掲載内容は、九州で開催される第18回学術大会へのお誘いをはじめ、各種委員会報告、IFEDソウル大会出席記ならびにホワイトニングコーディネーターの記事も盛り込んで興味ある内容にしました。
2)ホームページの管理運営と社会的アピール
委員が月替わりでチェックして、企画構成の見直し、古くなった内容の訂正、新規内容の追加などを行っている。社会的アピールの内容や方法などは、費用対効果の点から継続審議となっている。妙案がありましたら、ぜひ、委員会宛にご提言下さい。
3)第19回学会は、平成20年（2008）11月2～3日、日本歯科大学新潟生命歯学部講堂・アイヴィホールで開催します。2会場同時進行で盛り沢山の内容とする予定ですが、シンポジウムやフォーラムで卓越した企画案がありましたら、ぜひ早めにご提案下さい。

編集後記

ニュースレターVol.15 2007 Summerをお届致します。本学会の機関誌「歯科審美」発刊月の中間月の6月と12月に制作し、会員の皆様方に最新のニュースと情報をお届けすることになっていましたが、諸般の事情によりズレていました。今回は、ようやくにして正しい発刊月に戻すことができました。
今回の広報委員会は、インターネット上で行い交通費の学会負担の軽減を図りました。掲載内容は、恒例によって各種委員会報告を中心に構成させて頂きましたが、それ以外にIFEDソウル大会やホワイトニングコーディネーターの記事も盛り込んで面白くいたしました。どうぞお楽しみ頂きたいと思います。

（広報委員会　委員長　加藤喜郎）